

竹炭試験炉の基本方向

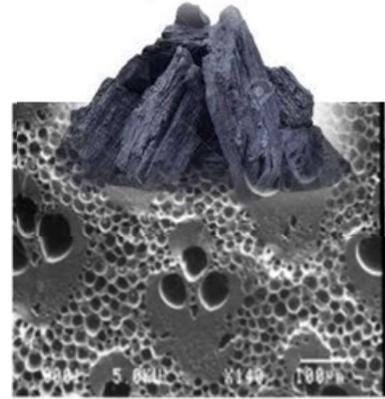
有機物であれば何でも炭にできるが、それぞれ特徴を持った炭になる。特定機能を目的を考慮して、炭化法と原料の選定をテスト。

- 目的 大井地区の竹の種類や形状にあわせて各種のデータを集める
- ① 昇温速度と形状に関係なく、炭素固定率の高いものを大量生産
 - ② 昇温速度を緩やかにして、竹炭の形状を確保、炭素固定率は高いが少量生産
 - ③ どちらにも属さない単なる炭

→ 品位別に炭化法を分けて製造できるシステムの構築

製造装置毎の竹炭比較

- ① 簡易炭化炉(ドラム缶活用)
- ② 土窯(地元にある在来工法)
- ③ 灯油式陶芸窯との比較
- ④ 伏焼き(地面で大量に製作)→ 1ヶ月に実施
- ⑤ 耐火煉瓦炉で高温処理



竹炭

炭化法の特徴と炭化装置

炭化法	着火まで	熱分解	炭化	終了	特徴	形状	炭化装置
在来式	外部より加熱	自然炭化	炭材の一部 燃焼熱	空気の遮断	緩やかな温度上昇	現状保持	土窯・伏焼き・ドラム缶
灯油式	外部より加熱	外部加熱	外熱との燃焼熱	強制消化	急激な温度上昇	破砕状	灯油式陶芸窯
試験炉	外部より加熱	自然炭化	炭材の一部 燃焼熱	空気遮断と加熱停止	緩慢な温度上昇	現状保持	耐火煉瓦製・キャストアル断熱

炭化法による温度・時間・形状

炭化法	熱分解	温度上昇速度	時間	温度制御	形状外観	機能
在来式	自然炭化	初期(24~48h) 0.3°C/min以内	72~96h	水蒸気制御(空気)	原型、細孔構造の保持	界面的性質と細孔は発達
灯油式	外熱加熱	急激	急激	燃焼制御(空気)	表面の損失 微細孔構造崩壊	界面的性質と細孔は発達は弱い
試験炉	発熱制御(密閉式)	緩慢	450~950h	発熱制御	原型保持 硬質化	硬質化

テスト材料	テスト温度	差異の確認項目
モウソウチク	500°C	部位別
マダケ	700°C	前処理の有無
ハチク	1000°C	形状
布袋竹		採集時期
四方竹		その他
小枝		
地下茎		
その他材料		

里山には美しい竹林が似合う……

